

【資料2】

平成22年度唐津市立竹木場小学校 学校評価結果

<p>1 学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きて働く学力を身につけた児童の育成 ・思いやりの心を持ち、態度や行動で表せる児童の育成 ・命の尊さがわかり、進んで健康や体力づくりに努める児童の育成
--

総括的な教育目標を、より具体的な児童生徒や教師、学校の「姿」としてイメージする

<p>2 学校経営ビジョン</p> <p>〈めざす学校像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ①活気と活力にみち、笑顔にあふれる楽しい学校 ②学習環境がデザインされ、整理整頓が行きとどいた美しい学校 ③礼儀正しく、生徒が仲の良い学校 ④生徒一人ひとりが存在感を持てる学校 ⑤地域の文化を理解し、地域を大切にす学校 <p>〈めざす児童像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ①夢や希望を持ち、目的意識を持って諸活動に意欲的に取り組む児童 ②礼儀正しい児童 ③よく観て、よく聴き、よく考え、進んで学ぶ児童 ④根気強く、最後までやり抜く児童 ⑤相手のことを考えて行動できる児童 ⑥心身ともにたくましい児童 <p>〈めざす教師像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校教育目標・学校経営方針・学校の教育課題を意識した教育実践を行う教師 ②教員同士が、お互いに切磋琢磨する意識を持ち、学び合う姿勢を持った教師 ③目的意識・課題意識を持って、教育実践を行う教師 ④諸会議において、自らの意見・考えを表明できる教師 ⑤質の高い授業をめざし、授業改善に努力する教師 ⑥使命感を持ち、研修と研鑽に励む教師 ⑦生徒一人ひとりを大切にする教師 ⑧地域や保護者、生徒から信頼される教師

このうち、特に今年度力を入れるものを絞り込む
 絞り込むに当たって、特に、前年度、「何ができて、何ができなかったか」を参考にする

<p>3 本年度の重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ①小・中連携の推進による教育活動の改善と充実 ②地域連携の推進による教育活動の質的向上 	<p>4 前年度の成果と課題</p> <p>○ 学校の研究テーマである「表現力を活かした活用型授業の実践」に取り組む、冊子にまとめることができた。</p> <p>全教諭による、授業研、小6・中1を対象にした授業研を実施、小中間の相互の授業交歓会により小中における授業形態の違いを確認できた。</p> <p>活用型授業の取組により、基本的な生活習慣、学習への意欲付けなどは成果が見られ、今後もその基盤の上に研究を継続していく。</p> <p>課題として、活用型授業を発展させていく中で、9カ年の児童の成長段階をふまえた小中連携した授業づくりにより、授業の展開の中で個人の表現力を生かし、高めていく指導法の研究が必要である。</p> <p>児童の一人ひとりに成果の定着を図り、表現力の向上のために、基礎的・基本的知識の定着が必要となり、朝読、暗唱・読み聞かせの取組、計算力・漢字力をつけるための反復ドリル学習(計算タイム)(漢字タイム)、家庭学習の課題研究の充実等を図っていく必要がある。</p>
--	--

絞り込んだ重点目標の成果や課題を具体的に評価するためには、どのような項目や指標を盛り込むべきかを考える

5 総括表						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	● 学校経営方針	学校教育目標及び学校経営ビジョン、本年度の重点目標の周知	・教職員への周知率100%、保護者への周知率100%の目標をめざす。	A 教職員への周知率は、達成することができた。保護者への周知率も85%と目標を達成することができた。	・職員会議・校内研修、学校便り、学校評議員会等で周知を図る。 ・学校HP、携帯電話掲示板等の活用をする。	[成果] 教育目標をスローガン化して表示した。その結果、保護者の周知率も上がり、100%を達成することができた。
	○ 危機管理体制の整備	危機管理体制の整備と関係機関等との連携	・危機管理マニュアルの点検と整備。 ・校区消防団と連携しての避難・消防訓練の計画的な実施。	A 危機管理マニュアルの点検と整備や火災・不審者に対する避難訓練を校区消防団との連携にて実施し、避難方法の確認を周知させた。	・学校危機管理マニュアルの再点検といじめ防止の日常的な取組の確認をする。 ・育友会、警察、青少協等との連携。 ・不審者対策緊急連絡メールの周知と利用促進をする。 ・地域への協力依頼と予防的行動の促進をする。	[成果] ・危機管理マニュアルの点検と整備や火災・不審者に対する避難訓練を校区消防団との連携にて実施し、避難方法と避難経路を周知させた。 ・校内の安全点検を常時化して破損箇所や危険箇所の確認と不審者対応の巡回ができた。 [課題] ・地域との連携を促進し、校舎の修繕、登下校時間帯の安全確保に協力を呼びかける。
	○ 安全管理	施設設備の保守 校内外での事故防止の徹底	・校内外での事故発生0をめざす。 ・施設設備の保守安全点検。	A 校外の安全管理については、交通安全教室や登校道路の危険箇所確認の実施、校内の安全管理については、日常の校内安全点検を全教職員にて実施。校内外の安全に意識を持って努めた。	・毎朝の教職員、保護者、交通指導員による登校及び挨拶指導を計画的・継続的に行う。 ・毎月の校舎内外の安全点検活動の確実に実施する。 ・学校生活、体育の授業等における事故防止指導の徹底を図る。 ・不審者対策緊急連絡メールの利用促進をする。	[成果] ・新学期の交通安全教室を開催し、交通マナーの習得・自転車の乗り方の指導ができた。 ・登校道路の清掃を兼ねての危険箇所点検をして安全確保ができた。 ・保護者と連携し、朝の登下校指導を計画的に実施した。序道の安全確保とあいさつ運動に成果があった。 [課題] ・集団下校時の防犯ベルの全員所持を徹底する。 ・地域の協力により児童の把握と安全確保をする。

	○ 開かれた学校づくり	授業や行事参観等、学校公開の推進 来客・電話等の接客マナーの向上	・保護者の授業参観等の参加率80%以上をめざす。 ・地域のニーズにあった興味・関心のある講演会や講習会の開催。 ・接客マニュアルの確認と具体的実施。	A	保護者の授業参観や学校行事への参加率は90%を越え、達成された。「食と命」の教育講演会を開催して80%の出席率で関心が高かった。また、校区民の参加も多かった。	・保護者や地域、学校評議員に対して、授業や行事公開等について、学校便り、学校HP、携帯電話掲示板等で周知する。 ・授業参観等の迅速・確実に案内をする。 ・今日的課題や地域のニーズにあった講演会や講習会の実施する。 ・接客マニュアルの研修と促進をする。	[成果] ・授業参観や学校行事への参加率が、90%を上回り、目標を達成することができた。 ・携帯電話の掲示板を活用した連絡網体制ができ、緊急連絡や学校行事連絡の周知徹底ができた。 [課題] ・ホームページや携帯電話の行事掲示板を活用して、一ヶ月前には保護者に周知できるようにして、行事等へ参加率の向上を図る。 ・地域人材活用についての取組が少なかったため公民館・各種地域団体と連携をとって、積極的に協力を依頼し、地域ぐるみの教育活動を推進する。
教育活動	○ 校種間連携	小中連携の一層の推進	・小中連携の3部会に分かれて、「活用型授業」の研究実践。 ・小中TTによる授業形態の実践と各領域の関連性を重視した授業内容の確立と実践	A	・小中連携の研究実践に取り組み、全員授業研ができた。 ・小中教員によるTT授業を全体研修として実施できた。小中の授業交流に成果があった。	・小中TTでの年間3回の校内研究授業の実施。 ・小中連携フォーラム(仮称)の取組をとおして研修を深めていく。	[成果] ・小中連携による校内研究を推進し、小中相互の授業研究・生徒指導の共通理解に成果があった。 ・保護者からも小中の教員によるTT授業は、児童・生徒を理解する上で高い評価を得た。 [課題] ・小中併設校の利点を生かした義務教育9年間のスパンを考慮した学校運営、授業形態を研究していく。
	● 学力向上	基礎基本の確実な定着 表現力の向上	・県学力状況調査において県平均を1ポイント上回る。 ・基礎学力テストにおいて合格者100%を達成する。 ・研究授業(公開)各自年1回以上。 ・NRTテストの分析結果の活用	B	・県学力状況調査において1.6ポイント上回る。 ・NRTにおいて応用力に学年間の差があった。 ・基礎学力テストにおいて、合格者100%を達成することができた。	・計算力・漢字力をアップするため反復ドリル学習の計算タイム・漢字タイムを実施する。 ・朝読書、暗唱、読み聞かせを取り組む。 ・児童朝会におけるスピーチタイムを実施する。 ・全国・県学力状況調査・NRTの結果の分析と対策に取り組む。 ・基礎学力テストの結果の分析と対策に取り組む。 ・3分前行動を指導する。	[成果] ・基礎的な学力は、反復ドリル学習を多く取り入れたため向上してきた。読み聞かせや暗唱等の取組で落ち着いた学習態度の育成に成果があった。 ・基礎学力テストにおいて、TT授業や補充学習に取組、学習時間の確保に努め、成果をあげた。 [課題] ・NRT、基礎学力テスト、学力状況調査等の分析を十分に検討し、学年に応じた対策に取り組む。 ・読書指導の取組に重点を置き、読解力の向上を図る。
	● 心の教育	全領域における道徳教育の充実 差別やいじめのない学校づくり	・全体計画及び年間計画の再検討。 ・道徳授業公開年1回以上の実施。 ・「ふれあい道徳」の授業参観実施と保護者・地域の参観。 ・縦割り活動の充実。 ・SCとの連携	A	全学年道徳授業研を実施。「ふれあい道徳」を授業参観日に実施、保護者・地域の方々の100%の参観で実施できた。 言葉遣い・思いやりの心を育てる取組がやや不十分だった。	・道徳における各学年の指導計画及び指導案の作成をする。 ・人権作文、標語等の適切な指導をする。	[成果] ・「ふれあい道徳」での道徳授業を全学年で公開した。保護者の参観が、100%実施できた。 ・「なかよし月間」「なかよし集会」での人権・同和教育の指導に全学年で取り組み、保護者から高い評価を得た。 ・各学年の発達段階に応じた道徳のねらいを明確にした道徳授業ができた。 [課題] ・将来を見通した進路学習を重点に取り組み、人との関わりを大切に心を育てる必要がある。
	● 健康・体づくり	歯と口の健康づくりの推進 健康(望ましい生活習慣)の啓蒙	・昼の歯磨き実施者100%をめざす。 ・家庭周知率70%以上をめざす。	A	昼食後の歯磨き実施者が、100%を達成することができた。 家庭への周知率は、保健便りや学級通信の取組で、目標値を達成した。	・歯科校医による歯磨き指導や要治療項目の保護者連絡の徹底をする。 ・保健便り、検診連絡等の発行や携帯掲示板の活用をする。	[成果] ・昼休みの歯磨き実施は、おおむね達成できているが、学年により達成できなかった。 ・保護者へ児童の体調管理について、保健便り・学級通信を活用して指導することにより、欠席の数が少なかった。 [課題] ・歯磨き奨励を全学年実施できるように習慣づける。 ・歯科校医による歯磨き指導教室の実施と保護者へ保健便りや学級通信、パンフレット等をとおして啓発していく。
	○ 環境整備	校内緑化の推進 地域環境の美化推進 清掃整頓の徹底 ノーチャイムの徹底	・校内美化活動意識調査A評価70%以上をめざす。 ・校舎内外清掃整頓の徹底。 ・校区清掃活動の実施。	A	校内美化活動意識は、80%の評価で達成できた。	・学級園の整備をする。 ・学期1回大掃除週間の実施。 ・地域清掃活動の学期1回の実施。 ・育友会との協力・連携により学校教育環境整備事業の推進をする。	[成果] ・校内美化活動を縦割り班での清掃活動を日常化してゴミなし学校に取り組んだ。学級園の整理・学級の花管理に意識が高まり、きれいな学校づくりに成果があった。 [課題] ・ひとり1鉢運動に取り組み、命の大切さを感じ、優しい心づくりに努める。
	● 小学校低学年の学習環境改善充実	低学年における基本的な生活習慣や学習館の育成	・「きちんと返事ができる」「授業開始時刻に入室・着席ができる」「個人の持ち物(引き出し、ロッカー)の整理整頓ができる」「後片付けができる」「履物を揃えることができる」「係りの仕事ができる」等が80%以上できる。	A	基本的な生活習慣の定着に取り組み、相互評価で良くできたという評価が、90%を達成できた。	・一人ひとりに声をかけ、個に応じた指導の徹底。 ・担任のチェック表、個人のチェック表での確認。 ・保護者との連携により家庭での指導協力体制づくりの推進をする。	[成果] ・入学時から基本的な生活習慣指導を徹底し、十分に身につけさせることができた。 ・少人数のため個に応じた指導が徹底でき、基礎学力、NRTにおける学力調査でも高い値を示し、身についている。 [課題] ・家庭環境の違いで保護者の教育に対する意識に食い違いがある。学級通信や懇談会での対応、教育講演会や子育て学習会等で教育意識の高揚と家庭教育の向上に努める。

評価結果を踏まえて、「何ができて、何ができなかったのか」を考える
特に、C、D評価はもとより、A、B評価も、「評価項目として適切だったのか」は吟味の余地がある

6 総合評価
各領域ともおおむね達成できた。特に、学校の教育目標の周知率が向上した。学校が、どんな学校づくりをしていこうと考えているのか、児童・保護者・地域に何を求めているのか学校目標スローガンを掲げたことにより、いっそう周知できたと思う。また、開かれた学校づくりにおいても、保護者の年間をとおした授業参観や学校行事への参観率が、90%を越え、学校に対する関心や協力する意識があることがわかった。また、学校便り、学級通信、保健便りや携帯電話の掲示板等による学校行事のお知らせや緊急連絡体制が円滑に取り組まれたため、安心できる学校づくりができたことに成果があった。

「できなかった」点について、次年度以降の具体策を検討する
「できなかった」こと自体よりも、改善策を見出せるかが重要である

7 来年度の改善策
教育課題である①小中連携の推進②学力向上の推進③地域連携の推進を校内研に位置づけ、その具体的施策の「小中連携12のプラン」を実現していく。小中連携では、9年間を見通した授業づくりや授業規律の改善、学力向上では、言語活動の充実・基礎、基本の定着を課題として取り組みをしていく。地域連携では、地域の人材を活用した体験活動に取り組み、学校では習得できない知識を育む。

●は共通評価項目、○は独自評価項目